

議事録	
件名	令和4年度 第1回草津市地球温暖化対策推進本部会議
日時	令和4年7月29日（金） 9：12～9：55
場所	草津市役所 2階特大会議室
出席者	<p>副本部長：山本副市長</p> <p>本部員：辻川副市長、藤田教育長、木村総合政策部長、荻下総合政策部理事（経営・DX戦略担当）、北相模危機管理監、南川総務部長、高岡まちづくり協働部総括副部長（まちづくり協働部長代理）、寺田環境経済部長、永池健康福祉部長、山本健康福祉部理事（健幸都市づくり・地域共生社会推進担当）、金森子ども未来部長、松尾都市計画部長、東岡建設部技監、打田建設部長、生田建設部理事（プール整備・草津川跡地整備担当）、奥山建設部理事（住宅担当）、横山上下水道部長、増田教育部長、菊池教育部理事（学校教育担当）、河合議会事務局長</p> <p>事務局 環境経済部：太田環境経済部副部長（総括） 古川環境経済部副部長（気候変動対策・資源循環担当） 温暖化対策室：津田係長、辻井主査</p>
欠席者	本部長：橋川市長、岡田まちづくり協働部長
議事内容	
<p>報告事項</p> <p>1. 地球温暖化対策に関する法・計画・システムについて・・・【資料1、参考資料1～2】</p> <p>2. 令和3年度草津市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の実績について</p> <p> 1) 市域からの温室効果ガス（CO₂）排出量の現状・・・【資料2】</p> <p> 2) 第4次草津市地球冷やしたいプロジェクト重点アクション・・・【資料3】</p> <p>3. 令和3年度草津市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の実績について</p> <p style="text-align: right;">・・・【資料4、参考資料3～6】</p> <p>■質疑・意見等■</p> <p>○資料4の3ページ目、各部局のCO₂排出量グラフで上下水道部が突出しており、これは浄水場の運営によるものである。浄水場の使用エネルギーの99%以上が電気であり、各種ポンプ設備の稼働によるものである。安全で上質な水道水の提供にはどうしても相応のCO₂排出量が発生し、別途対策も検討しているところであるが、資料に排CO₂出量が多い理由を記載できないか検討いただきたい。 ⇒施設の特性上、CO₂排出量が多くなることは十分承知している。資料の書きぶりを検討させていただく。</p> <p>○教育委員会においても上下水道部と同様にCO₂排出量が多くなる理由を記載してほしい。 ⇒両部局と調整の上、追記等を行う。</p>	

報告事項

4. 令和4年度の地球温暖化対策に関する取組について・・・【資料5】

■ 質疑・意見等 ■

○今年本庁舎でRE100の電力を導入したということだが、コストは高くなるのか。

⇒本庁舎においては、従来から環境に配慮した電気の調達を行っており、通常の電力単価より高いプランで契約していたことから、RE100に契約変更した際も、その予算の枠内で対応できたと聞いている。

○本庁舎のRE100は経常経費内で対応できたということだが、RE100を今後庁外施設にも導入していくのであれば、必要な費用等をより調査の上、検討されたい。

⇒太陽光発電等の手段も併せて今後検討していきたいと考えている。また、事業所ごとにRE100を導入できるキャパシティの関係もあり、まずは本庁舎から導入したところである。

○本庁舎のLED導入については、当初の予定から少し遅れたが、今秋頃から閉庁日を利用として順次進めていく予定である。工程が決定次第、庁内周知を行う。

協議事項

1. 令和4年度以降のゼロカーボンシティ実現に向けた組織体制および進め方について

・・・【資料6、参考資料7～8】

■ 質疑・意見等 ■

○資料6の3ページ、市ロードマップとして検討する取組事例で建築物の整備・改修指針やZEBなどが挙げられているが、当然予算を伴う取組になるので、予算と連動する形でロードマップの作成をお願いしたい。

⇒十分調整の上、進めていく。

○市ロードマップ作成の方向性で今記載があるのは、市の内部のものだけであるが、市域全体でゼロカーボンを進めていくためには、市民や事業所の協力も必要になってくるため、外部の意見も取り入れながら進めていく必要があると思うが、その体制についてどう考えているか。

また、国の脱炭素ロードマップではゼロカーボンを表明した自治体では、地域を巻き込んだシナリオを作成するとあるが、シナリオとロードマップの違いについて伺う。

⇒シナリオとロードマップは同義として考えており、2050年までに具体的にどのようにCO₂を削減していくかなどのスケジュールを作成するものである。区域施策編については、現在のものは草津市地球冷やしたいプロジェクトとして普及啓発を主な目的としたものになっており、今後、市域のCO₂を具体的にどのように削減していくかなどを盛り込んだ草津市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の別冊となるロードマップを別途策定する検討を進めている。市ロードマップは草津市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の部分が多くなると想定されるが、草津市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の部分も含め、環境省等の意見も参考にしながら作成を進めたいと考えている。

外部との意見調整については、当然専門家や地域の事業所の方々等の意見を取り入れながら進めていく必要があると考えている。温対法に基づく実行計画協議会の設置や既存の冷やしたい推進協議会を活用することが考えられるが、市ロードマップの作成にふさわしい組織体制を十分検討しながら進めていく。

○ゼロカーボンを進めていくための施策は各省庁から様々打ち出されているが、予算も必要になってくるので、内部だけでなく外部も含めたコンセンサスを得た上で進めていくことが重要であると考えられる。先日、米原市が脱炭素先行地域に選定されていたが、本市は今後申し込む予定はあるのか。
⇒現在、複数の事業所から共同で申し込まないかという提案を受けている。全国的に見て目新しい取組になることや、その取組によって市の地域課題の解決に結びつくようにするなどあらゆる角度から検討する必要があり、各提案を比較検討しながら、応募するかどうかも含めて十分検討していく。

○どの取組が一番効果的なのか等、本市の特性も踏まえた上で、外部も巻き込んで検討していく必要があると考えている。例えば、県内では滋賀銀行が力を入れておられるグリーンボンドの取組や国ではグリーントランスフォーメーション（GX）といった取組もあるので、来月にはゼロカーボンシティ特別委員会もあることから、これらを踏まえた検討を今後進めてもらいたい。

⇒本日は従来の小委員会を幹事会に改め、今後のゼロカーボンの進め方等について協議する場を整備する目的で審議いただいております。ご指摘の内容については、その体制が整い次第、具体的な方向性を示していきたいと考えている。脱炭素先行地域についても、理事者より検討するよう指示を受けているので、応募する場合は幹事会の場を活用しながら議論を行い、部局横断的に進めていきたいと考えている。

以上